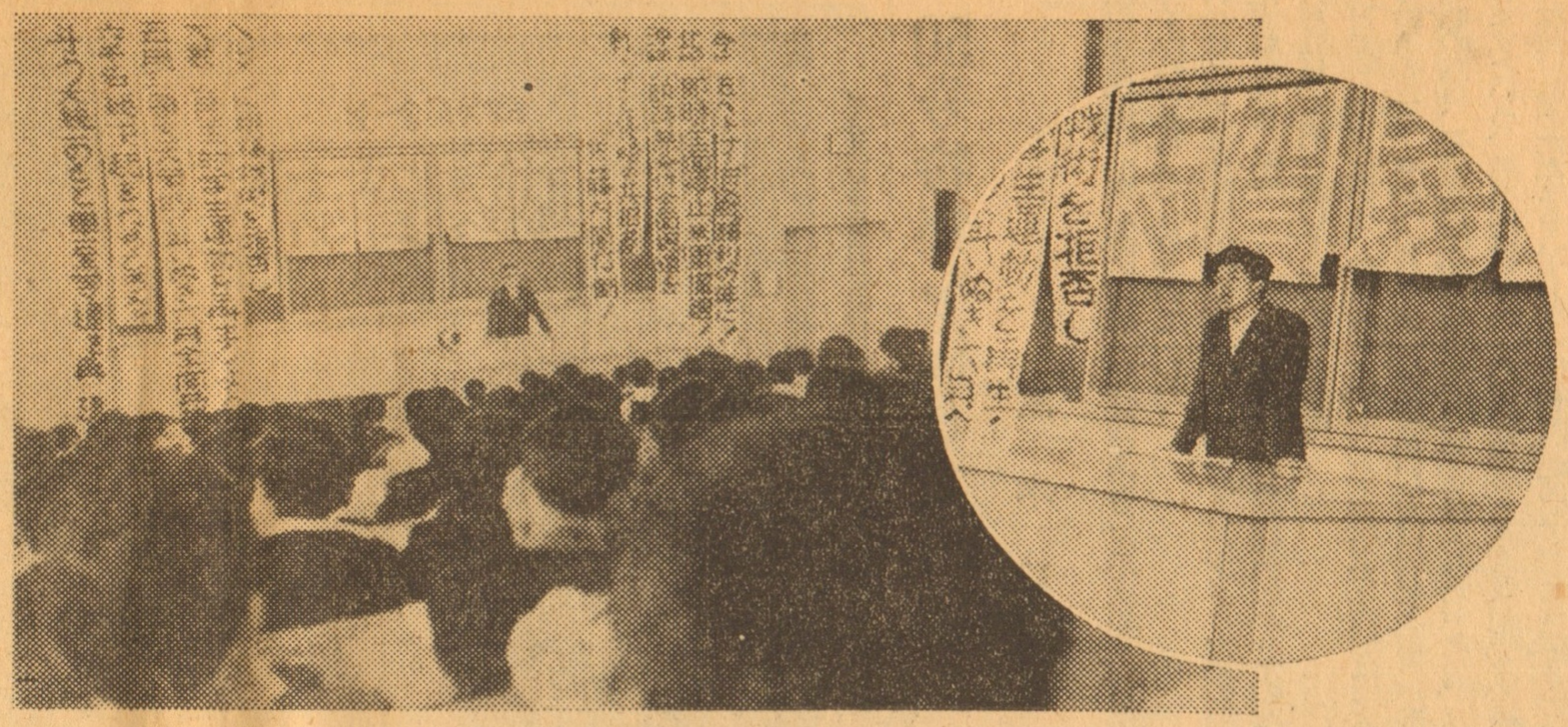
自治会の大衆的再生めざし

統一会議民学同派中執選挙に

―大阪市大―



【市大支部発】市大支部では現在第7回中央執行委員会選挙にむけて、民学同を支持する学友を含め同盟を中心に活躍中である。

5月14日には、民学同市大支部統一会議の共催によって、志賀義雄氏講演会を開催し、のべ四百名を越える学友の参加によって圧倒的に成功した。

午後三時、会場の工学部階段教室には、早くから学友がつめかけ志賀氏の講演が始まるころには、同教室をうずめつくした。

市大支部を代表して、井口同志のあいさつと、統一会議民学同派議長藤岡君から決意表明が行なわれた後、拍手の中に志賀氏が登壇し講演が始まった。

この講演で、「情勢の正しい把握と、そのもとでの当面する最重要な課題を徹底的に斗う中でこそ真に展望を切り拓く事が出来る。それには敵をより少なくし、味方をより多くすることである」と強調された。一筋に五十数年間社会活動の指導者としての志賀氏の発言は、参加者全員の心を強くとらえて離さなかった。

時同じく、一部同盟脱落分子（共労派系）が、「いいだ、もも講演会」をぶつけたが、わずか百五十名しか結集出来ず、恥しさの余りか、翌日には「もも講演会」については一切触れられなかった。

市大支部を中心とするわれわれ統一会議（民学同派）は、志賀義雄氏を迎えこの政治集会でかちとられた意志統一を基礎に中執選挙を有利に展開している。今、選挙においてわれわれは、一部同盟脱落分子（共労系）が「主流派」と自称し、一切の論点をぼかし、こっそりと「第四全学連への道」＝七月自治会共闘結成を密輸入するムード主義に全面的に対決している。われわれは府学連の強化、六・一五全関西学生総決起六千名集会を成功させる府学連・兵庫県学連共同アピールに基ずき関自代の成功、課題の一致にもとずく行動の統一、全国全自治会を包含する単一全学連への道をさし示すことによって、七月自治会共闘結成のセクト的意図を暴露し、広汎な支持を集めている。

民青系は五・一四全関西集会の失敗から諸要求路線へと動揺し、伸び悩んでいる。棍棒・ヘルメット戦術を拒否する学友の正しい意識によってトロッキスト諸派は早くも選挙戦線から消えうせている。

学生戦線の統一を最大の論点としつつ、われわれを中心とする統一会議（民学同派）自称「主流派（共労系）民青系の三つどもえの選挙戦において、政策的優位に立つわれわれが着実に学友の支持を得つつある。

民学同第二党に

分裂5・14（民青提案）否決

【京大支部発】5―24全国学生統一行動に向けて取組みが進みつつある京大において、5月10日教養部自治委員会が招集された。

この自治委員会における争点は民青の主張する5―14神戸集会か我々の主張する5―24全国学生統一行動かであった。我々は民青の提案が、日程的にもクラスでの取組みを放棄した、闘争乱発と活動家動員主義であること、また現在の中心課題は〝神戸港を軍港にする反対〟的なものではなく、北爆全面停止佐藤内閣打倒であること、また神戸集会は神大の選挙を控えた民青のセクト的利害追求以外の何ものでもないことを自治委員諸君に訴え、大阪府学連、兵庫県学連のアピールに呼応した5―24に向け、クラスでのベトナム研究会、行動委員会を組織し、学内デモ、ビラマキ等の形で他のクラスにもアピールして、5―24を大衆的に闘わねばならないことを提案した。

この提案の前に、過半数を取ることができず否決（賛成54、反対60、保留10、棄権3）され、民学同（22）はマル同中核（21）社学同（11）を押え、第二党の地位を堅持した。

現在、5―24に向けてクラスでの取組みは研究会、クラス討論など順調にすすみつつあり、5―24においては百名規模の大衆的なプラカード、ゼッケンデモを獲得する為に奮闘している。

5―24の闘いを、大衆的に成功させ、6―15全関西総決起集会に京大から200名動員する予定である。

民青の妨害を排し

志賀講演会五百名結集

【東京理大支部発】五月十七日自治会革新会議主催で行なわれた志賀義雄氏大講演会は、狂気の民青の妨害を排し、五〇〇名が結集するという圧倒的成功に終った。民青と「常任委員会」は、ポスター破りはもちろんのこと、連日、膨大なビラをまき、反共攻撃に終始した。平和のための講演会を行なうことが「自治会の撹乱と、分裂を策動する」ものであると、正気の人間では考えられないことをわめきちらし、志賀一派＝民学同＝自治会革新会議の「特定の思想をもちこむもの」という右翼まがいの反共攻撃のみを行い、平和と民主主義への敵対的な攻撃をしつづけた。当日は、志賀氏の名を黒ワクでかこんで、北京放送並みの中傷をしたり、会場入口前で妨害活動を行なったが、学友から反感をかっただけで、講演会は五〇〇名の学友の参加により、圧倒的に成功した。講演会が成功するとみるや民青と、一部の「常任委員」が乱入して、はじめよ否される催者の制的に上りいるので なり、四策動した糾弾され

大学の団結した否定するッキストは、「自いる」と る出しにめている離され、すら孤立治会革新への攻撃対し「平生生活のもと、民主的、め、全学

全学で暴力と不正の不良従業員一掃の闘

―大

五月二十日から一週間、阪大生協への納品が停止されている。食堂が閉鎖され、教職員、学生の生活が再び脅かされている。この納品停止の危機をもたらしたのは、暴力と不正の不良従業員が居すわり、理事会の方針が何一つ貫徹しえないことである。トロッキストはこれを口実に不良従業員の解雇白紙撤回を叫び暴力と不正の問題を学生の眼から遠ざけようとしている。

≪生協は今や、暴力と不正の温床である≫

残念なことに、今や阪大生協全体が暴力と不正の温床になっている。外販（職域外販売）元暴力団員を中心とする暴力事件、妥結事

ままな自務命令無残ってのほとん支持して な従業員た。今や必要とさ

≪阪大ている≫

阪大生の分子を来の自主割を放棄点で阪大第一に大学の民自治を脅